

第1回 三朝町温泉を活用した健康まちづくり事業検討委員会(議事録)

【日 時】 令和5年4月18日(火)19:00~20:00

【場 所】 役場第2会議室

【参加者】 別紙のとおり

【内 容】 次のとおり

1 開会(青木地域振興監兼企画健康課長)

定刻になりましたので、ただいまから第1回三朝町温泉を活用した健康まちづくり事業検討委員会を始めさせていただきたいと思っております。私は役場の企画課(企画健康課)の課長をしております青木と申します。どうぞよろしくお願いをいたします。最初に申しておきますが、本日委員に就任予定であります旅館組合の沖田理事長は、所用で欠席と伺っておりますので、お知らせをさせていただきます。それでは、開会にあたりまして三朝町長松浦弘幸がご挨拶を申し上げます。

2 町長あいさつ

皆さんこんばんは。皆さんには、温泉を活用した健康まちづくり事業の検討会に、委員としてご参画をいただきまして、本当にありがとうございます。この事業は本当に長年、町の構想としてあった温泉との関わり、温泉で健康づくりをする、そういったことをようやく事業という形で着手することができました。後で事務局の方からも説明すると思いますが、やはりこの三朝町で、住みなれた町で、皆さんが健康で暮らしていただく。そのためには、温泉というものが一つのツールになっていく、そうしたまちづくりをしていきたいという思いでございます。考えれば考えるほど深いものになりますし、でもあまり最初から重たく考えてしまうと、なかなか難しいところもありますので。医療も進歩しますし、健康寿命もまた、その時々によって変わってきたり、社会の状況も変わってきます。例えて言えば、これから想定する施設も、それぞれに成長していくような形で、最初から大きなものとしてではなくて、お互いに伸ばしていくみたいなのところがあってもいいんじゃないかなというふうに思います。

そういったことで、皆様方にお世話になりますけど、どうぞよろしくお願いいたします。

3 辞令交付(青木地域振興監兼企画健康課長)

続きまして、お集まりの皆様にご委員に就任していただくということでございますので、町長から辞令を交付させていただきます。こちらから辞令をお持ちしますので、その場でお受け取りをいただきたいと思っております。

—松浦町長から出席者に対して辞令交付—

4 自己紹介

青木地域振興監	それでは、日程に沿ってまいりますけれども、最初に自己紹介をお願いしたいと思います。皆さんお知り合いの方ばかりだというふうにお見受けしますが、今日はこの委員会の初の会合となります。マイクを事務局からお渡ししますので、一言ずつご挨拶をお願いいたします。
深田委員	三朝温泉病院の院長をしております、深田です。1年前から院長をさせていただいておりますので、三朝町の皆さんには、まだ顔が知られてないかなと思っておりますけれども、今日の健康まちづくり事業検討委員会ということで、病院と温泉と切っても切れない関係かなと思っておりますし、何か知恵が出せると思って参加しております。よろしくお願いいたします。
湯川委員	三朝で開業している湯川医院の院長、湯川喜美です。湯川医院に私が入ってちょうど24年、先日、前院長の25回忌をいたしましたので、丸24年経ちました。もともと私は生まれが三朝ですので、ずっと頑張ってきたかなと思っております。住民の健康ということでは非常に関心がありますし、特に健康について、温泉を使って、健康寿命の延長ということに力

	を入れる、その協力ができればいいなと思っております。よろしくお願いいたします。
遠藤委員	改めましてこんばんは。名簿の3番目でございます。三朝町社会福祉協議会の会長の遠藤英臣と申します。どうぞよろしくお願いいたします。社会福祉協議会にも、倉吉市の方や三朝町の方、結構入浴に来られております。健康、まちづくり、こういう部分に視点を当てて、社協の入浴施設、機能訓練等を活用できたらいいかなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。
足立委員	三朝温泉観光協会会長をしております足立広範と申します。私も温泉旅館を経営しております。温泉は子どものころから親しんでおりますけれども、この健康まちづくり事業を通じまして、観光のお客様にも、町民の皆様にもより良い事業となるように、微力ですが、頑張らせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。
福田委員	皆さんこんばんは。160ほどの事業所の代表として、三朝町商工会から来させていただいております。かたや大瀬温泉郷開発協会の理事長もしておりますので、大瀬の地にそれができたらいいな、なんて思いながら。長年の懸案でしたこの案件、ようやく松浦町長が踏み込んだなというふうに思っております。私としても、少しでも力になればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。
新藤委員	NPOみささ温泉の理事長を拝命しております、新藤です。よろしくお願いいたします。温泉を活用した健康まちづくり事業、まさに今まで、私もどっぷり、このことに浸かって活動していきたいと自負いたしております。「たまわりの湯」の営業を閉めたのは、これがきっかけではありません。たまたまいいいタイミングで入れ替わって、新しい事業を開始されるということでございます。しっかり頑張りますので、皆様よろしくお願いいたします。
麻田委員	NPOみささ温泉に、この3月まで勤務しておりました、麻田裕子といいます。「たまわりの湯」と、「すーは一温泉」にずっと関わらせていただいて13年間、健康になりたいというお客様、町民の方、地元の方、県外から来られる方とたくさん接してきました。その方たちの思いが、この事業で、素敵な事業になりますように、という思いです。「この会議、大変立派な方ばかりの中になんで私が」と思ったのですが、そういう思いで参加させていただきました。よろしくお願いいたします。
前田委員	この4月に鳥取県商工会連合会の鳥取の本部から、この中部商工会産業支援センターに異動してまいりました。前田幸広と申します。時が昭和から平成に変わったその元年の4月に三朝町商工会に入りまして14年間、三朝の方でお世話になりました。今日いらっしゃる大多数の方に大変お世話になったなと思っております。そういう思い入れのある三朝町にこういう形でまた貢献できるのを大変嬉しく思っております。どうぞよろしくお願いいたします。
岸田委員	皆さんこんばんは。私は鳥取県の中部総合事務所県民福祉局の岸田と申します、どうぞよろしくお願いいたします。私も中部に赴任してから、観光商工担当として2年目となります。こういった健康まちづくり事業について、私も初めての経験でございますけれども、少しでも力になれば、貢献できればいいなと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。
青木地域振興監	ありがとうございました。それでは、ここからは赤坂副町長が委員長として以降の議事を進行いたしますので、よろしくお願いいたします。

5 概要説明・意見交換

赤坂委員長	それではここから私の方で進行させていただきます。副町長の赤坂でございます。日程に従いまして、進めさせていただきたいと思っております。 5番の概要説明・意見交換というところでございます。最初に事務局の方から説明をお願いします。
事務局	失礼します。この事業の事務局をしております企画健康課の岩本と申します、皆さんどうぞよろしくお願いいたします。私の方からは、お配りしております資料のうち、資料番号1

	<p>と資料番号の2、飛んで5を説明させていただきます。資料3と4につきましては、青木企画健康課長から説明をさせていただきます。</p> <p>それでは資料1をご覧くださいませようお願いします。この資料が、これまでの温泉を活用した健康まちづくり事業の概要、経過を簡単ではありますが、まとめたものとなっております。この事業については、町長の挨拶の中でもありましたけれども、温泉を町民皆さんの健康づくり、健康増進のために活用していこうということで始まったものでございます。当時整理したものとして、右上の、丸が幾つもついている絵がありますが、三朝温泉と健康づくりにおいて、すでにあるもの、あるいは不足しているであろうというものについて表したものとなりますが、これらを整理していく過程において、事業の全体目標を、三朝町で健康で自分らしく暮らしていく。そのために、温泉をはじめとする資源を最大限に活用していきましょうということで進んできたところでございます。これまでの経過でございますが、2の取り組み状況でございます。令和3年度につきましては、先進地の視察ということで、厚生労働大臣が認定する制度で、温泉利用型健康増進施設の取り組みをしておりました大分県の竹田市、北海道の豊富町に視察を行っております。そうしまして、情報収集も並行していき、令和4年度については、進めていこうとしておりましたこの事業の大きな方針を定める必要があるということで、基本構想策定に向けて着手しております。具体的にはワーキンググループを設置し、議論を進めてまいりました。それぞれ開催日を記載しておりますが、延べ4回ほど開催し、基本構想原案の作成を進めてきたところでございます。公募の委員さんもワーキンググループの会議に加わっていただきまして、それぞれの立場から、非常にたくさんのアイデアや提言をいただいております。委員名簿については、資料1の裏面の方につけておりますので、参考にしていただけたらと思います。そうしまして本日お配りをしております基本構想の原案へと繋がって、今日の検討委員会の開催となっております。3の今後の方向性といったしましては、計画の策定と実現、施設整備、連携事業の試験実施と定着化を図っていこうと考えております。以上が資料1の説明でございます。続きまして資料2については今、この会を開催をさせていただいております検討委員会の設置要項となります。こちらについては参考までにお付けをしたものでございます。以上で資料1と2について説明をさせていただきました。</p>
<p>青木 地域 振興 監</p>	<p>続きまして私の方から、資料3と4を使いまして、先ほど、事務局が話をしてくれましたけれども、概要と経過を受けまして、温泉を活用した健康まちづくり事業基本構想の原案についてお話をさせていただきます。先ほど私、自分の紹介のときに企画課と申しましたが、4月1日から企画健康課ということになっておるのを忘れる傾向にございまして、ここに健康が来ておるということは、今日の会議の目的になつとるということでございますので、合わせてご理解をいただきたいと思っております。それでは構想の具体的な話に入る前に、事業を提案するそもそもの考え方について少しお話をさせていただきたいと思っております。先ほど町長の話にはありましたけれども、三朝町の貴重な資源であります三朝温泉が、古くから効能につきまして研究がなされ、医療との連携に取り組んできております。また、それを観光に活用するということで取り組みが進んでおるわけですが、そういった中で医療の前段となります健康づくりであるとか、予防対策、そういったステージがあるわけですが、こちらについても観光では、温泉の魅力として発信し、誘客に繋げてきているという経過がございます。</p> <p>ところが、振り返って町内、町民の健康づくりを考えてみますと、以外にもこの温泉を使った健康づくりというのが言葉にもなっておりませんし、取り組みが進んでいないということで、温泉の町でありながら、その泉質を活かした健康づくりというのがもっとできてもいいんじゃないか、やらなくちゃいけないんじゃないか、ということになったということでございます。そういった経過で、今回このラドン温泉の健康効果を町民が享受できる取り組み、仕組みづくりをやるということで、今回の事業がスタートしております。</p> <p>町健康政策の目標というのはいろいろございます。まだ私も慣れていないところではございますけれども、健康寿命を延ばす介護予防、フレイル予防といったところが現在では強く求められておるのかなと思っております。健康づくりと温泉を組み合わせた仕組みを考えて、必要な入浴施設についても検討を加えようと考えております。そういった意味で、この入口となるものが、今日これからお話をします基本構想の原案ということでご</p>

ざいます。委員の皆様におかれましては、後で流れをお話すると思っておりますけれども、今年度この基本構想の次となります基本計画をご検討いただくというのが大きな役割ということでございますが、今日はワーキンググループの提案をまとめた基本構想をそのまま入口としてご理解をいただいて、そこをステップに入れていこうということで、説明させていただきますので、よろしくお願いをいたします。

それでは基本構想の原案についてでございます。資料3でございます。まず2ページをお願いします。目次をつけております。全体を3章で構成しております、めくっていただきますと3ページからが第1章の背景ということになっております。ここではワーキンググループ会議での話を参考としまして、役場あるいは関係機関が所有していますデータ等を引き出しまして、健康づくりの現状でありますとか、三朝温泉の現状について記載をしております。この記載から、これからの現状から見える課題ということを分析いたしまして、今回のプロジェクトに向かうためのポイントを示しているところでございます。8ページをご覧いただきたいと思っております。現状から見える課題ということで、健康づくりでは、介護認定率が高いとか、日常的に運動している人が少ない、健康づくりと三朝温泉の活用が繋がっていないというようなことを挙げておりますし、三朝温泉については、観光客数の減少であるとか、旅館の減少度を三朝温泉の町民への恩恵が少ない利用が少ない、日帰り入浴施設が少ないといったようなことでまとめております。9ページからは、既存計画の位置付けということで、今回の取り組みを起す背景になっておりますけれども第11次三朝町総合計画における記述、それから第2期三朝町まち・ひと・しごと創生総合戦略での裏付けを示しておるものでございます。

続きまして第2章、11ページからでございます。この2章が基本構想の中心となってそのフレームをまず示しておるところでございます。町全体の目標を健康長寿のまちづくりといたしまして、この健康まちづくり事業では、三朝温泉をはじめとする町の資源を有効に活用し、町民の予防を総合的に推進、健康増進をする仕組みを作るということを目標にいたしております。それでさらにこれを具体化する柱として、3番の方向性としてますけれども、三つのテーマを掲げております。

一つ目は、「“三朝温泉”を知ってもらおう」ということでございます。町民の健康づくりを、温泉を通じて考える上で、三朝温泉のいわゆる効能でありますとか、そういったものが意外と町民の中では知られていない、理解されていないということがあるということでございまして、健康づくりに温泉を活かすという動機付けにするためにも少し学んでもらう、そういう機会を増やしていこうということでございます。これはワーキングの時に、三朝温泉の観光に尽力されてる方から出たご意見でございまして、そういう意味では温泉旅館等で活躍しておられますラジムリエさんの活用といいますか、そういった方の取り組みを考えられるのかなと思っておるところでございます。

二つ目です。これは「温泉と健康づくりを連携させる」ということでございます。これは病気にならない、介護にならない、健康のままという、いわゆる健康寿命の延伸を望んだときに、健康であることを三朝温泉が繋いでいく、三朝温泉で繋いでいくというイメージで考えたものでございます。例えばストレッチとかヨガといった運動の後の入浴であるとか、入浴の後の運動というようなこともあります。運動をしたら温泉に浸かる、温泉に浸かったら運動するという、そういうようなものが少しメニューといいますかプログラムとしてできたらいいのかなと思っております、この事業の一つのポイントになる部分でございます。

続きまして、三つ目でございます。三つ目は、「入浴等施設を整備する」ということを書いております。これは温泉を使って健康づくりを進めていこうというとき、それを受け入れる新しい施設が必要では、ということで掲げたものでございます。新たな施設が起点となりまして、多様な健康づくりへの活動が始まっていくイメージを持っております。健康づくりはもちろんです、例えば観光面にもプラスになるということ、それから、温泉を通じて生まれる交流ですとか、新たな集客、そういったものにも繋がるようなイメージで考えたものでございます。この施設「等」としてありますので、単純に入浴というだけではないのかもしれないということも考えた上での言葉にしております。これら三つの柱の概要を述べましたけれども、個々にはそれぞれページを割いて、例えばこんなことが、

	<p>というようなことを書かせていただいております。ワーキングで出ましたテーマ、お話をできるだけ具体的にしようということを入れておりますので、そういう視点でご覧いただきたいと思っております。</p> <p>それから18ページをお願いいたします。18ページは、事業実施に向けた体制と今後のスケジュールということでございます。基本構想が基本計画となり、そのあとハードで言いますと、基本設計、実施設計となってまいりますし、先ほど申しました第2の柱の部分でございまして、並行して温泉と健康づくりを連携させる実証事業というのを、令和5年から仕組んでいこうとおるところでございまして、これを続けていく、繰り返していくことによって、プログラムの充実とか発展を目論んでおりまして、例えば保健師ですとか、インストラクターとか指導員といった方で推進チームをつくりまして、これを具体的にしていこうということを目論んでおるところでございまして。</p> <p>19ページをお願いします。第3章は、ワーキングの結果を少し記録にとどめるという意味で加えております。22ページに出された意見をまとめておりますけれども、一言で三朝温泉の効能と言いましても、ワーキングで様々な意見が出るわけですが、縦軸と横軸にとっていますけれども、医療、介護、健康づくり、もっと言いますと、この右側にリラックスだとか、休養だとか、娯楽だとかそういったものもまだまだ出てくるということで、いろいろ多岐に渡りまして、整理が難しくなるほどのお話が出ておりましたので、ちょっとわかりやすくするために、今回は町民の健康づくりを狙いとした取り組みをしましょう、ということを示したものでございます。その他の部分でも、いろんな意見が出ておりますので、これを参考にすれば、次はどこだっという温泉を活かした地域振興というのが、より身近で取り組みが考えられるかなということで、載せておるものでございます。よろしくをお願いします。それでは以上が基本構想の概要でございまして。</p> <p>次に資料4で、1枚もののカラー刷りをつけておりますけれども、これが先ほど申しました、第2章の三つの柱について、ある意味PR用ということで作りました絵でございまして、これから話をしていく上で、基本構想についてはこれを見ながら、理解を得ていこうということで作ったものでございますので、あわせてご覧をいただきたいと思っております。簡単ですが、以上で、健康まちづくり事業基本構想原案の説明とさせていただきます。よろしくをお願いします。</p>
事務局	<p>資料の5について説明をさせていただきます。事業全体といたしましては、表に書いてある通りでございまして。令和4年度については、先ほど青木課長から申しましたように、基本構想の原案を作成したところですが、令和5年度につきましては、この「原案」を取るというところで、構想の策定、それから基本構想をさらに一歩具体化するということで、基本計画の策定、それから基本構想で三つ方向性をお示したところですが、それぞれ沿った動きを展開させていこうと考えております。そのうち、特に令和5年度でございますが、本日集まっております検討委員会委員の皆様と一緒に基本計画の策定を進めていくために、複数回検討委員会を開催させていただきたいと思っております。</p> <p>1回目は本日でございまして、基本計画策定に向けた意見交換を、ざっと7月ぐらいには我々事務局の方から、ある程度の骨組みみたいなものをお示しができればいいのかなと思っておりますが、この辺り若干流動的に動きながら、タイミングを見ながら、情報提供だとか、意見を頂戴したいときに、会を開催させていきたいと思っております。簡単ではありますが、以上で私の方から説明を終わります。</p>
赤坂委員長	<p>事務局から概要等について説明をさせていただきました。端的に言いますとワーキンググループで作成していただいた原案を成案としてまとめるというのがこの検討委員会の役目でございます。それをさらにもう少し具体的な形にしていくということでございまして。それでは原案については結構な量がございまして、急に意見等がすぐに、というわけにはなかなかならないかもしれないんですが、これまでのところで、何かご意見ですとかご質問とかありましたら、よろしくお願ひしたいと思います。挙手をしていただければマイクをお持ちしますので、よろしくお願ひします。</p>
新藤委員	<p>意見です。この温泉を活用した健康まちづくり事業は、まさに5年も6年も前からいろいろな構想の中で調整してきた事案がたくさん含まれております。最初のワーキンググル</p>

	<p>ープのところ、資料1の図があると思うんですけども、まさに日帰り温泉施設、「たまわりの湯」を閉めました、これと、トレーニング施設、ジム。私は3年間鳥取のワールドウイングに通いました。これを三朝にどうしても持ってきたという気持ちがあって、温泉と健康、それから体を動かして、年をとっても健康でいられるというのは、やっぱり運動機能の低下っていうのはどうしても起こるので、やっぱりある程度体を動かさないといけないということで、ちょっとミーハーですけど、イチローさんが来てたり、鳥谷さんが来ていたり、鳥谷さんには会いましたけれども。そんなことから、筋トレじゃなくて、何て言うのか、いわゆる可動域を広げるというトレーニングだったもので、自ら体験して、一生懸命3年間も通いましたけれども。これは、ここをやっぱり基本にして、連携していけるような施設ができたかなということは、私の頭の中では、構想しておりまして、ここにすでにワーキンググループの中で出てきているということに、非常に好感を持っております。よろしく申し上げます。</p>
<p>赤坂 委員 長</p>	<p>おっしゃる通り、町としても温泉を活用した入浴ですとか、トレーニングの関係というのは以前から検討を重ねてきたところで、こういう形で本格的に始めたというのは最近ですけども、ずっと検討はしてきたということでございます。皆さんが言われましたけれども、やはり我々行政ですとか、それから観光関係者だったり温泉の関係者というのは非常に温泉の効果効能というのをよくご存知で、そのことについては、皆さんそれぞれが語れるぐらい詳しいわけですけども、これを町民の皆さんが、そういったことで、同じように温泉に対しての知識だったり、そういう親しみがあるかというところまでいっていないというのが実情かなというのはいろんな方と話をしているところでございます。まずは、この天与の資源でございますので、温泉について町民にももう少し恩恵を享受していただきたいということによって関係者以外の町民が温泉の効能を語れるようになると、やはりそれはまた観光面であるとかそういったことにも、返っていくのかなということで、好循環になるかなと思っております。加えて医療とか介護の分野は、説明の中にもありましたけれども、予防ということに重点が置かれるようになってきたかなと思っております。なつてからの治療であったり、対処したりではなく、まずは予防ということになるべく健康でいる、ということになってきたかなという意味でも温泉だとか、新藤さんが言われたようなトレーニングも含めて、予防活動に重点を置くというのは、健康づくりの面では、有効かな思います。</p> <p>せつかくですので、皆さんから、何でも結構です。質問以外でもご意見でも結構ですので、何かございましたら御発言ください。</p>
<p>福田 委員</p>	<p>町長の挨拶にもありましたけども、今もありました。町民ですよ、今回ターゲットを絞ってるのは。なかなか他の地区の温泉施設とはまた違う考え方のかなというのを、再度確認したいと思って。よく温泉地であれば、町外からたくさんの人を集めてくるような宣伝の仕方だったり、観光面からの繋がりを持って行って説明すると思うんですけども。話を聞いていると、町民のための施設であるというような意味合いが非常に強いなと思いました。他にある町の、例えば湯梨浜町だとか、関金だとかにある施設とはちょっと考え方を改めて考えたほうがいいのか。先ほどから話を聞いて思うんですけども。まずそこが基本的な考え方ですよ。再度確認をしたいと思います。</p>
<p>赤坂 委員 長</p>	<p>私が答えていいのかどうか分かりませんが、そもそもスタートが温泉を活用した健康づくりということで、まずは町民ということで、特に施設だけの話に偏ってしまうとそういう話にはなりますけど、必要な施設も含めて、そういった構想からもう少し具体的にどうあるべきかということで、その中の一つの整備として町民向けの施設も必要ではないかということが、構想の中ではそういう流れかなと思っております。こと施設を作るための計画ということだけでもなくて、そういう町民の健康づくりのために温泉を活用して、介護状態にならない、病気にならない、予防のためにはどうしたらいいかということで、先ほどこの表のことを新藤さんから言われましたけど、そういった、今、町に足りないものは何かということで、それを補う形で具体的な施設整備の話があったりっていうのはあるかな。そういうふうに私としては思っているところです。</p>
<p>福田</p>	<p>大瀬から砂原までは各集落に公衆浴場、そこの組合なりが持っているものがあって、そこ</p>

委員	<p>で恩恵を受けている部分、入浴に関しては、というのがありますよね。それが健康に繋がっていくという発想が、そこに入ってる人は全く持ってないんですよ。「自分の所に温泉があるから入りに行く」という発想しかないのを、どうやって町はこれと絡めて何かしていないと、ちょっと繋がっていないのかなと心配はしています。</p>
湯川委員	<p>今、三朝ではラドン体操とかを各集落とか、文化ホールを使ってしておられますけれども、ああいう体操の後にお風呂とか、先ほど説明の時にありましたけれども、そういうものが取り入れる場所があると非常に助かります。私は仕事が医者ですから、健康ということには非常に興味がありますけれども、それに加えて私自身がエアロビックと、それから高齢者向けのスローエアロビの指導者の資格も取ってますので、実は新藤さんをお願いして、去年、月に1回ですけど3ヶ月、すーは一温泉で高齢者5人で、スローエアロビをするとどういう体に影響があるかということ調べました。スローエアロビというのは、テンポが歩く速度ですから、ビートでいうと90から100ぐらいで激しい運動はないです。しかも、椅子に座って足踏みをするとか、足をストレッチするとか、というような体操ですけども、それを30分しただけで、ジトツと汗が出てくる、すーは一温泉の二階の部屋で。私は先日ちょっと調べたんですけども、ラジウムというのは、酸化作用があって、体の免疫を強めるとか、あるいはがんの進行を抑えるとか、がんになりにくいとかっていう効果も、昔から厚労省の研究なんかでいろんな場所でされてるし、それを使って、例えば関西とか九州から、がんの治療中に湯治に来られる方も現にあるわけですね。そういうことを県外の方はインターネットを使って知っておられるのに、地元の三朝町の方があまりそういうことを知らないってのはあると思います。この温泉は、毎日入っているから健康だよということ、あるいはがんが起りにくいよとか、免疫ができるんだよ、というようなそういう医学的なもので、もうちょっと県民にアピールするような方法もね、そうすると三朝の温泉ってそんなにいいのかと、町民自体が知るようになるんじゃないかなと思います。</p>
赤坂委員長	<p>まさしくそうだなというところでございます。先ほどもそれぞれの皆さんが言われました。町民にその部分をどうやって知らせたらいいかというのが肝になるのかなと思っております。</p>
遠藤委員	<p>社会福祉協議会にはお風呂が2つ、大きなのがあるというお話を自己紹介の時にさせてもらったんですけども。銭湯代わりに来られる方、それから倉吉市の方が、温泉があるのでってことで、デイサービスの方に来られる方、まちまちですが、町民の方は銭湯替わりという認識をしちゃうんですね。思い返すと、温泉のポスターってありましたよね。三朝の湯は体を元気にする、とか。以前、10年ほど前の企画課長の時代だったと思うんですけど。そういうポスターが結構あったんですけど、そういうポスターって本当に社協の温泉のところに、全くPRのものが無いなというふうに思いましたので、もしそういうものがあれば、やっぱり町民に知らしめるということであれば、社協の風呂の方にも使わせていただければなと思ったところです。よろしくお願いします。</p>
赤坂委員長	<p>たしかに観光客向けのPRポスターはあるんですけど、そういう健康を意識した、町民も含めたそういったポスターというか周知というのは不足している部分かなというのは意見を聞いて思いましたので、検討していく必要があるかなと思います。</p>
深田委員	<p>町民の方が、その温泉の知識が少ないというのは、どの世代もそうなのでしょうか。若い世代が多いとかはありますか。</p>
赤坂委員長	<p>私の感想としては、どの世代もかなというのは思います。要は、温泉街の関係者、観光関係に携わっている、PRのために特にラヂムリエの資格を取ってる方はそうですけど、説明できるぐらいの効能に関しては詳しくて、特徴である放射線の部分についてもいろんな大学の先生とかに講義とかもしてもらったりして、それについての健康効果というのは非常に関係者は知ってるんですけども、それ以外の町民はどの世代についても、さっき言われましたように地元の方がお風呂に入っていくって、普段入ってるにもかかわらず、そのことはあまり実は知られないのかなというのは、それは思うところですけど、どうですか。</p>
福田	<p>やはり、銭湯の代わりですね。</p>

委員	
深田委員	公衆浴場が大瀬から砂原までであるというところでしたけど、そこに入ってこられる方はだいたい若い世代もいらっしゃるんですね。
福田委員	幅広いですね、小さい子どもからお年寄りまでいらっしゃいます。
深田委員	例えばそこに何かその温泉の効能とかも書いてありますよね。
福田委員	細かい字でね、いわゆる県からもらう表ですね。それはあまりチェックする人はいないかもしれません。
深田委員	<p>そういう所に、何かほかの、温泉のいろんなことの情報があると、普段から行っている銭湯代わりの場所が「そういう効果もあるのか」とわかりやすかったりしますね。子ども時代からですね、むしろ小学校中学校のあたりから、そういう情報も刷り込んでいくというのはあれですけど、知っていくっていうことも大事なのかなと、聞いていて感じました。</p> <p>僕自身が病院で整形外科医をしてるんですけども、20代30代、自分自身の時は痛くなった患者さんに薬を出すとか、そういうことで、良くよくしようと思ってたのが、自分が50を前になってくると、あちこち体が痛いということが、やっぱり薬で治すということじゃなくて、体が硬くなってくるとか、先ほど新藤さん言われたように、やっぱり可動域が、なくなってくるとか、柔軟性が低下してくることによっていろんなことが起こってくるということだと思うので、それをある程度の柔軟性が落ちないようにストレッチとかしていくような、やっぱり機会がある程度、40代50代あたりからできるといいなというふうに思いました。</p>
赤坂委員長	お風呂だけではなくていろんなこと、運動もそうですし、いろんなことを総合的にということなのかなと思います。言われる通り、町民向けのPRというのは少し健康効果については、今それぞれから意見を言われて課題かなと思います。
岸田委員	あんまりよくわかってないところもあるんですけども、この辺りは、もう温泉は出ないんですか。
赤坂委員長	どこでも出るわけでもなくて、先ほど言われましたけど大瀬にも源泉があって、大瀬の共同浴場とか。ロイヤルホテルは大瀬から配湯している、だから大瀬も出ないわけではないんで、当然源泉を持っておられるんですけど、大瀬、そして、浴場があるところで言うと横手それから山田には3つありますよね。それから三朝は、中湯だとか株湯だとか、それから砂原にもありますし、いわゆる三朝地区にはそれぞれの集落に共同浴場があると。
岸田委員	一般家庭とかも引くことは可能なんですか。
赤坂委員長	その辺は湯量がないもので、一般家庭には引いてないので、そういった共同浴場ということで、それぞれが運営されていると。なのでそういう古くからそういうところは家にお風呂がなくて共同浴場に行くのが当たり前というの、ずっとありました。最近の家庭はやはりシャワーが使いたいということで、お風呂を作られますけど。そういうところが多いかなと。
新藤委員	源泉をもっていればいいですよ。我が家にも源泉があります。常にラドンがある部屋に一日に3回くらい入ります。最近血液検査もきれいになっています。湯川先生にも見てもらって、血圧も下がってきました。薬のせいもあります、もちろん。
前田委員	今いろいろお聞きしてる中で、多分、温泉の良さっていうのは、詳しくは知っておられなくても町民の方だったら大体こんなもんだっていうのは、理解されてるんじゃないかなとは思ってます。要は、温泉の良さはわかりますけど、それを健康づくりにどう結びつけるかというところで、今言われたような運動だとか何とか、むしろそちらの方、町民の皆さんに、あくまで福祉、町民福祉だと、健康のためだということの啓発をどうしていくかっていうところが、非常に大事なんだろうなと思います。確かに銭湯代わりで何も考えずに入っている、それは事実だと思いますが、そこに「温泉ってこうで、運動を組み合わせたらこうなるから、みんな一緒に頑張るって運動しましょう」という啓発の方法かなという

	ところが、あくまで健康づくりという視点で立てばですけども、それがいいのかなと思います。その波及効果として観光というところも視野には入るんだと思うんですが、そこを前面に出しちゃうと多分ぼけてきちゃうので、あくまで健康を重視して、そこに観光客の方は、地元の方が楽しんでおられれば入ってくるんで、観光客のことを意識したプランじゃない方がいいのかなという感じはしています。
赤坂委員 長	温泉のことをよく知っているということで、先ほど言われた痛みが取れるとか何とかっていうのはやはり体験的に皆さんが知られているので、その部分では異論はないのかなと思っていて。要はそれをいわゆるラドンの健康効果とかよそにはない泉質の良さというのは、最近の研究の成果というのはなかなか知られてないのかなという部分で、そういうところをPRしていくというのは必要ななと思っています。
福田委員	「たまわりの湯」がなくなって、町はその代わりに施設を作るんだよというイメージが、今沸いているんですね。非常に、その代わりに施設だというイメージが。だからその健康を繋げていくというのをしっかりと持っておかないといけないのかなというふうに思っています。
新藤委員	今、代わりって言われたけど、温泉を活用した健康まちづくりに「たまわりの湯」は貢献してなかったのか、私は十分に貢献してたと思うんですよ。町民や周りの市町村の方々、こぞっておいでになっていました。これ、やめるって言った時にどれだけ批判をくらったかわかりません。すごかったんですよ。「何でやめるだいや」って。そこに何があったかということも、皆さんに知って欲しいんですよ。いや、麻田さんたちの努力があったんですよ。必死の努力があったんですよ。
湯川委員	なんでおやめになるのかなと思っていました。
新藤委員	施設は昔からの「菩薩の湯」の状態のままですから。いっぱい、パイプが詰まったりとかいろいろなことがあってね。いわゆる修繕費ですよ。修繕費はめちゃくちゃかかるし、麻田さんもそうですけれども、みんな70近いんですね。1人2人辞められると、もうシフトが回らないようになって、大変な状態だったんですけども、彼女たちのどれだけ努力によって施設を維持し、また、皆さん受け入れていたのかということ、私が一番よく知るといえば私が一番よく知ってるんですけども。それがいわゆる、温泉に入っただけ、みんな良いお風呂に綺麗なお風呂に入っただけということにもう本当にすごい努力していたんで、このことに貢献していたというふうに思います。
湯川委員	源泉はあるのですか？
新藤委員	町の源泉をそのまま使っていました。
湯川委員	そこを使ってまた何か新たな施設を作るということはないのですか？トレーニングやジムができるスペースがあって、汗をかいたらジャボンってできるような施設ができれば。
赤坂委員 長	具体的な話になってきました。まずはその構想を作って、今言われました、観光面ではなくてそういう健康づくりという面に視点を当てながら、そういった施設の整備のことについても具体的に考えていこうという趣旨でございますので。また、具体的な話になっていく際に、そういったことも話し合いをしていけたらと思います。
麻田委員	私も毎日「すーはー温泉」のラドンを吸ってるんですけども、それがこの健康状態を保ってるかどうかっていうような意識はないんですよ、当たり前であるから。2月からだったですかね、健康福祉課さんでしょうか、スポーツ教室を募集されて、それに参加してみたんですが、週1回の運動なんですけれども、2ヶ月続けて、今3ヶ月目に入りましたけど、さっき深田先生も、新藤理事長も言われたんですけど、自分の体の可動域が広がるっていうんですか、それを今実感してるんです。なので、温泉だけじゃなくて、やっぱりそこに繋げる、そういう施設っていうか、その対策みたいなものを本当に考えていただくと。それに募集となったときに、定員20名がどっと超えてきちゃったらしくて、お断りしてる状況だったらしいんですね。4月からも募集されたら、20人を超えて、40人近くになったと。そういう年代も増えてきてるってこともあるんでしょうけれども、スポーツ、

	運動というものを並行して何か考えていくべきかなっていうのを最近感じております。
湯川委員	やはり高齢になるほど人は健康に関心もたれますね。これから衰えていく不安もあるでしょうし。
福田委員	大瀬の温泉と「すーは一温泉」を使って、フルマラソンで自己ベストが出るように頑張ってみたいと思います。

6 依頼事項

赤坂委員長	皆さんありがとうございます。時間の方もきております。まだあるかもしれませんが一旦ちょっと切らせていただきます。それぞれ貴重な意見をいただきまして参考にさせていただきたいと思います。続きまして、次第の6番に行きたいと思います。それでは事務局の方から説明を。
事務局	資料の6で、温泉を活用した健康まちづくり基本構想の策定に向けての意見ということで付けております。基本構想については本日お配りをして、初めてご覧になった方もあろうかと思っておりますので、一度見ていただきまして、ご意見がございましたら、何でも結構でございますので、記入いただいて、お知らせをいただければ取りに行ったりもします。よろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。
青木地域振興監	今申しましたけれども、期限を4月25日と書いてはおりますが、多少前後しても構いませんので、お気付きの点でもご意見等々いただければと思っております。いただいた意見で、いわゆる最終版をまとめまして、ひよっとしたら書面で皆さんにご確認ということになるかもしれませんが、こちらの方でそこをやらせていただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願ひします。 そうしましたら貴重なお時間を頂戴しまして、いいお話をたくさん聞けたと思っております。出ておりましたように、これをきっかけにして健康づくりをリフレッシュさせたいという思いがございますので、いろんな視点でのご意見をいただければ助かります。企画健康課というのは、そういう役割かなと思っておりますので、新しい健康づくりを模索してまいります、よろしくお願ひします。 それでは今日はこのあたりで終わりにさせていただきます。どうもありがとうございました。お疲れ様でした。